

## メッセージアウトライン ローマ12：9～13「愛による行動」

[9]「愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善に親しみなさい」

「偽りがあってはならない」とは、それが見せかけだけの演技や芝居であってはならないという意味。愛に根ざした生き方は偽りではなく、真実で純粋なものでなければならぬ。そしてそれは悪を憎み、善に親しむというはっきりした態度を要求する。神は悪を行う者を厳しくさばかれる。→イスカリオテのユダ<sup>ダ</sup>(使徒1:16-25)、アナニヤとサピラ(使徒5:1-10)、アカン(ヨシュア記7章)

[10]「兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい」

「兄弟愛」(φιλῶντων)とはもともとは家族、肉親の愛情を表すことばであり、パウロはそれをクリスチャンどうしの愛とするように勧めている。クリスチャンは主であって一つの家族であり、兄弟姉妹なのである。クリスチャン相互の愛が家族的な愛にまで現実のものとなる時、その交わりは生きたものとなってくる。また尊敬をもって、互いに人を自分よりまさっていると思いなさいということも勧められている。この世にしばらく存在し、朽ちてゆく草木のような私たちを愛し、救い、神の子としてくださる神の愛を思う時、私たちは自分を誇るのではなく、お互いを尊敬しつつ謙遜に生きなければならない。

[11]「勤勉で怠らず、霊に燃え、主に仕えなさい」

「勤勉で怠らず」とは「熱心をもって怠けることなく」という意味。強いられた奴隷のようにではなく、絶えず熱心をもって励むこと。「霊に燃え」とは聖霊によって燃やされた熱心のこと。私たちが勤勉で怠らず、聖霊に燃やされて主に仕え、主と共に歩む生き方をしていくことが求められている。

[12]「望みを抱いて喜び、患難に耐え、絶えず祈りに励みなさい」

「望みを抱いて喜び」とはやがて天の御国ですばらしい神の栄光にあずかる希望を抱いて喜びにあふれること。「患難に耐え」とは様々な迫害や苦難にもしっかりと立ち続けること。→Iコリント10:13、ヘブル10:36 「絶えず祈りに励むこと」も信仰者にとって欠かすことのできないことであり、祈祷課題に事欠くことはない。→ヨハネ14:14, Iヨハネ5:14

[13]「聖徒の入用に協力し、旅人をもてなしなさい」

「聖徒の入用に協力し」とはクリスチャンどうしがお互いに物質的な不足や欠けを補い助け合うこと。→ヤコブ2:15-16 「旅人をもてなす」とは、当時の旅行にはいつも強盗や治安の乱れなどの危険がともなったので、親切に旅人をもてなすことは美しい愛のあらわれとなった。特に巡回伝道者や同信の友をもてなすことはクリスチャンとしての特権であり祝福となった。

このようにキリストの愛に根ざした生き方をクリスチャンが実践していく時、世の人々は、確かに彼らの中に神がおられるということに気づかされるであろう。